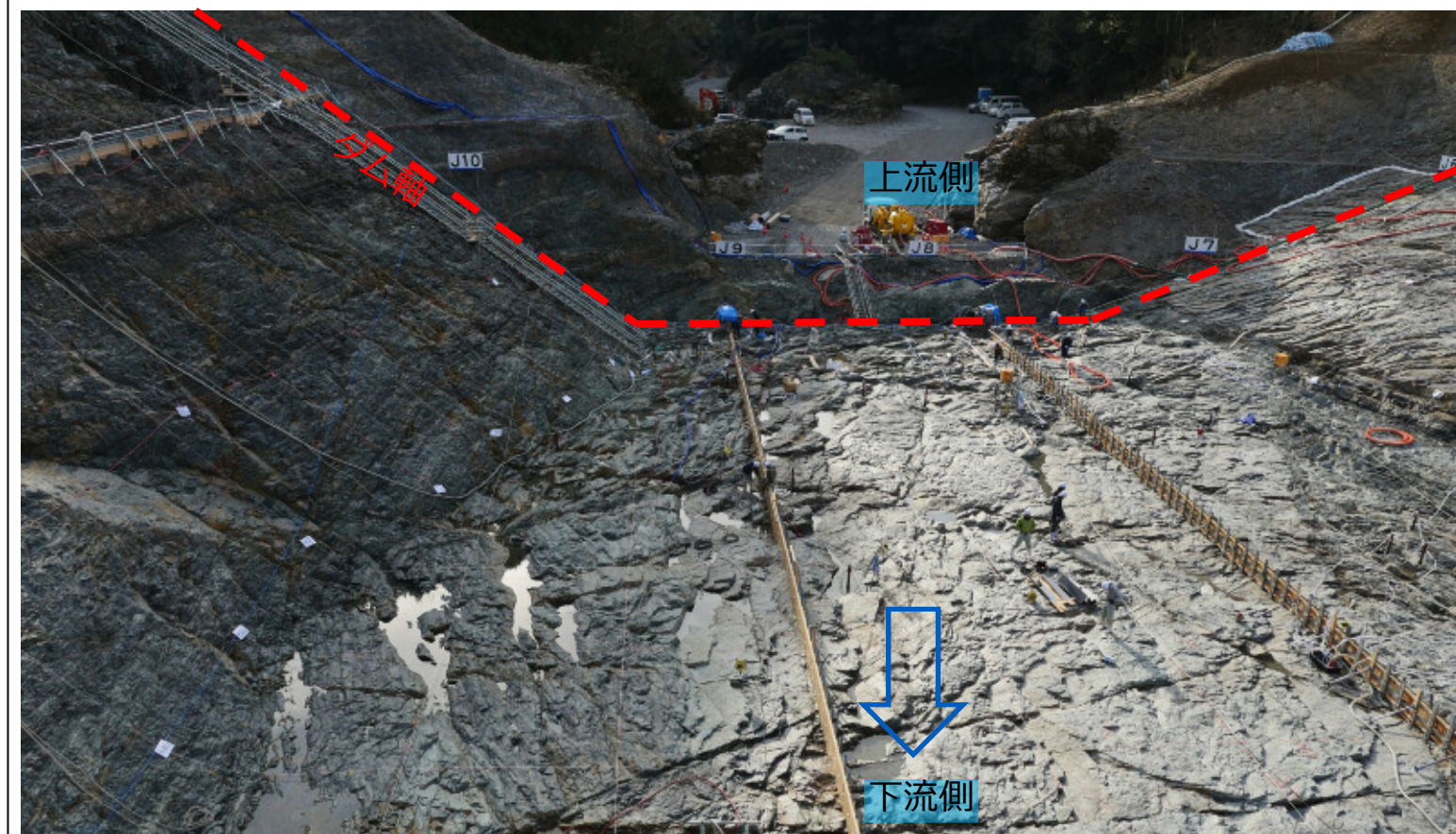


基礎岩盤の状況

基礎岩盤とは、ダムを支える土台となる岩盤です。砂上の楼閣という言葉があるように、コンクリートダムでは、通常CM級以上の区分の基礎地盤が必要となります。平瀬ダムでは、地質調査や安定計算の結果に基づき、錦川の元の河床から約7mの掘削を行っています。先日、コンクリートの初打設を終え、現在ではこの基礎岩盤は見えなくなっています。二度と見ることは出来ないため、ここでご紹介します。



平瀬ダム 本体初打設



現場見学会 建設業をより知ってもらうために

平成27年度末までの集計で、約900名の方が現場の見学を希望され、見学会を実施しています。今後はダムのコンクリート打設が頻繁に行われるため、見応えのある現場になります。こうした見学会を通じて、建設業や現場で働く人についてより良く知っていただければ幸いです。



平瀬ダムのコンクリート打設の流れをご紹介します。

①打設前検査



②モルタル敷均し(岩着面、打継面)



③コンクリート打設



④養生(湛水養生)



⑤打継面処理(グリーンカット)



①打設前検査

監督職員により岩盤清掃やグリーンカットの状況確認、型枠の位置と鉄筋や止水板等の埋設物の確認、断面検測等の検査を行い、打設を許可します。



②モルタル敷均し(岩着面)

コンクリート打設に先立ち、打設面に散水して給水させて、岩着面では岩盤にモルタルを2.0cm厚さで良くなじませるように擦り込みます。



②モルタル敷均し(打継面)

コンクリート打設に先立ち、打設面に散水して給水させて、打継面ではモルタルを1.5cm厚さで敷均します。



③コンクリート打設

クレーンで鋼製バケット(容量5m³)を打設位置へ誘導し、リモコン操作によりバケットを開放してコンクリートを投入します。



③コンクリート打設

コンクリートは外部、内部、構造部などの配合とモルタルを使用します。



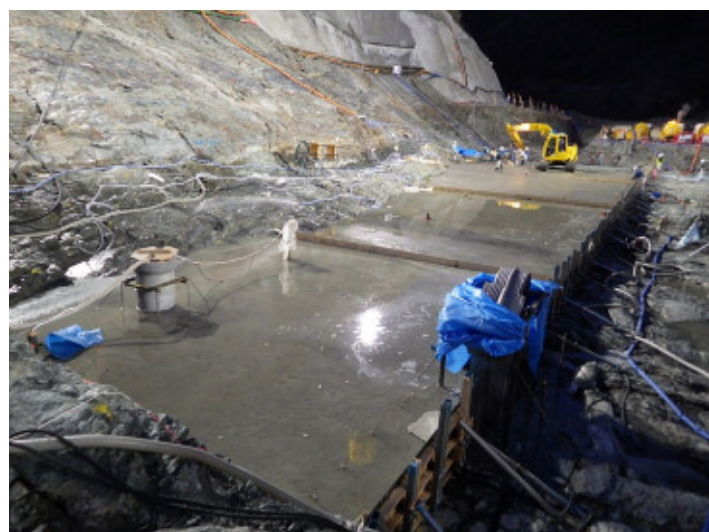
③コンクリート打設

バックホウの先端にバイブレータを装着したバイバックという機械で、コンクリートを締固めます。



③コンクリート打設

型枠際や止水板周辺、機械の入らない狭小箇所は、人カバイブレータにより締固めを行います。



④養生(湛水養生)

表面の水分補給による強度増加促進や乾燥収縮の抑制のため、湛水養生を行います。



⑤打継面処理(グリーンカット)

打継面のレイタンスは、水密性や耐久性に影響を及ぼすため、積算温度を目安に打継ぎ時間を決め、骨材の表面が見える程度を目安に打継面処理を行います。

2年半をかけて約34万m³のコンクリートを打設します。



★完成予想図

平成33年度の事業完成を目標に、事業を進めていきます。

